

今号の ■ 養成協開発委員 本間史祥 「依存症の理解と適切な予防・支援策とは！」
トピックス ■ 認定インストラクター紹介 「地域で同じ思いの仲間を増やし、活動したい」

今回は、当会教材開発委員である本間史祥さんの「NPO 法人全国薬物依存症者家族会連合会(やっかれん)」についての寄稿です。本間さんのネット依存啓発活動でご縁があり、各地での講演につながっています。新インストラクターの田島美紀さん(親子の心を豊かにする言葉かけ研究所)にも、ご寄稿いただきました。



「依存症の理解と適切な予防・支援策とは！」

本間史祥さん(養成協教材開発委員会 副委員長)

◇『やっかれん』とは

皆さんは『やっかれん』という組織をご存知でしょうか？正式名称はNPO 法人全国薬物依存症者家族会連合会です。薬物依存症者を抱える家族が誰にも相談できずに孤立する状態が、問題をさらに大きく、複雑にし、回復から遠ざけている現状があります。『やっかれん』は、依存者本人や回復施設を支援し、行政とも連携して依存症に対する社会の理解を広げていく活動をしています。私は、あるネット依存症の国際フォーラムで、『やっかれん』の理事の方と出会い、今でも一緒に活動しております。

『やっかれん』では、文科省の委託を受け、平成30年(2018年)度から全国各地で依存症予防教室を開催しています。身近にある依存症について、はまってしまう背景に何があるのか、予防には何が大切なのか、支援者や依存経験者、家族の観点から情報を共有し、皆様と一緒に考える新しいタイプの予防教室を運営しています。予防教室は実際に依存者の方や依存症者の家族の方からの体験談があり、その壮絶な人生を聞くだけで、多くの生きづらさや困難を抱えていることがわかります。「ダメ、ゼツタイ」というスローガンだけでは解決できず、依存は身近で、誰でもなる可能性がある病気であることの理解、生きづらい社会の是正、薬物依存者に苦しむ本人や家族の方々が、一人でも多くの支援や回復プログラムにつながって「やり直し」ができる社会づくりが必要だと感じます。

[出展:『やっかれん』 <https://www.yakkaren.com/>]

◇依存症予防教室での講演内容

私は、依存症予防教室で、「ネット依存症とは？」という講演を担当しています。講演は①子どもたちのネット利用時間や目的の推移②はまってしまう背景や子どもたちの心理③健康被害と3つの柱を設定し、組み立てています。特に重視するのは②で、子どもや大人にのめりこませる技術的な仕組みがあるということ、コロナ禍も大きく関係している日本の子どもたちの心理や社会学的な背景があるということに大切にし、『やっかれん』のモットーである「依存症は身近にある誰でもなる可能性のある病気」ということにつなげています。ネット依存症も決して特別なものではなく、ネットがこれだけ普及している時代だからこそ、誰でもなる可能性があり、提供する側はのめり込ませる様々な工夫をしているということを伝えています。

技術的な仕組みと子どもの心理や社会を知ることで、理解し、適切な予防・支援することにつながると信じています。

「地域で同じ思いの仲間を増やし、活動したい」

田島美紀さん(親子の心を豊かにする言葉かけ研究所)

インストラクターになろうと思ったきっかけは、地元で開催された「田澤雄作先生の講演会」に参加させていただき、ネット健康問題啓発者養成全国連絡協議会(THInet)の活動を知ったことです。これからの時代、とても重要なことであると感じ、普及活動をさせていただきたいと思いました。

私は長年、幼児教育・保育にたずさわっています。そんな中で、ゲーム依存の問題を目の当たりにしており、1つの社会問題と考えています。「デジタルネイティブ世代」を理解したうえで、ネットリテラシーや問題点の重要性をひとりでも多くの方に知っていただきたく啓発活動をしていきたいと思えます。また、現在の居住地で同じ思いの仲間を増やし、活動ができれば幸いです。

